

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 東ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;UjvovsvoCd=2392700049-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;UjvovsvoCd=2392700049-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
聞き取り調査日	令和5年10月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

敷地も広く平屋建て2ユニット。緑を多く取り入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと利用者として穏やかなゆったりとした空間を過ごせるホームである。各ユニット中庭があり、今年は利用者それぞれ夏野菜を育て収穫を楽しんだ。今年度は近くのモーニングに出かけるなどホームから、少しでも外に出かけることも目標に掲げている。

医療法人が母体であり、看護師を配置、利用者の健康管理と主治医との連携に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「明るく・笑い・楽しめる・心安らぐ家」やユニット目標がいつでも確認できるようになっている。理念を頭に置き、利用者様にも出来るだけ楽しんで頂ける様に業務にあたっている。利用者様が笑顔で、居心地のいい空間になるように支援したいと常に思っている。ユニットごとの目標を毎年決めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけると、近隣の方や畑の方とあいさつをしたり、時には話しかけて下さる方もいる。最近(3ヶ月ほど)ボランティアの方の受け入れや、外出を再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であったため、ほとんどできていない。事業所へ認知症の家族(入居ではない方)の方から相談があった時などは、対応の方法や気持ちを聴く、など管理者からお話することなどはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催ではふるかわ新聞なども取り入れ、ホームでの活動が伝わるようにしている。各委員さんからは、FAXにて意見を貰えるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者からは連絡事項など、メールで送って頂く。質問などは担当者へ電話にて行う。明確に指導、助言を貰えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より2ヶ月に1回の会議。ユニットドアの施錠についてやセルフチェックなど、常に身体拘束に繋がらないように研修会も実施している。身体拘束に当たる行為はないが、今後も拘束しなくてもよいケアを考えながら行っていく。ユニットドアは開錠しセンサーで気づき、外出希望の方は付き添えるように努力している。不穩が強くやむを得ずユニットドアを施錠する時もあるが、必要時以外はすぐに開錠するよう心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者にて勉強会を実施。勉強会以外で職員から疑問質問を受ける事もある。ホームで虐待行為はないが、第三者から見て疑われる行為はしないことが大切。言葉遣いやケアで疑問をもつ場面を見かけたら、その場で声を掛けるか管理者へ相談する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、後見人制度や自立支援事業の利用者はいないが、過去に何度か制度への結びつけの支援を行った機会がある。職員に制度について具体的に学ぶ機会はもうけなかった。職員や家族から相談や質問があった時には、管理者より制度や他の方法など含めて説		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より説明し、契約している。入居後は、面会時などに不安や疑問を確認し、説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット目標が、利用者様のやりたい事の実現であり、ご本人の意見・要望を取り入れる様に実践している。ご家族が面会時は、声を掛け日常の様子を伝え、質問には答える様心がけている。または管理者より説明してもらう。様子に変化があった時は管理者より電話にて説明し、家族の意向を確認している。職員間で共有できるよう、解決できるよう申し送り、検討もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、意見や提案を行い、会議でも今後行うと良い事など提案できる機会を持ってきている。管理者はすぐに対応が必要な事は、すぐ対処してくれる。職員同士でも、申し送りの場で意見交換、対策が出来る。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は、すぐに閲覧できるようファイルしてある。変更時は事務所に掲示し周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にて外部研修の機会は減った。(避けた)法人研修または、ホーム内で、研修の機会を多くした。もち回りの研修で、職員自ら勉強する機会があり、自分の考えと他者の意見も取り入れ、多方面からケアのあり方の向上に努める事が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、交流する機会はほとんどない。取り組みとしても行っていない。同一法人のグループホームとのみ、情報交換や問い合わせなど出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人にとって(理念の通り)居心地の良いホームになる様心がけて接している。入居時のフェイスシート、アセスメントシートを確認して対応に心掛けている。入居直後は特に注意し、ご本人が困らない様に話をする機会を多く持ちながらのケアに努めている。ホームに早くなじめるようにケアしている。話の内容を、他の職員にも申し送り、情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心で対応しているが、職員も要望など聞き対応している。電話や面会時に家族から質問があった場合わかる範囲で説明し対応している。管理者に報告し、不足部分是对応してもらっている。面会時に「いつも〇〇して手伝ってもらっています」と様子を伝えたり、感謝の言葉を伝える様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居見学、聞き取り、本人の行動を見守りながら、その時の状況に合わせ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常、意識しながらケアに努めているが、職員主導の場面も見られる。年上の方であり、尊敬と感謝を忘れずに対処しようと心掛けてきた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策をしたうえで面会して頂いている。コロナ禍であり、面会制限の時期もあったが、居間はキーパーソンだけでなく、他の家族(孫や遠方の兄弟など)様々な人とも面会で交流して頂ける様になっている。コロナ前は居室やリビングでお茶やお菓子を共に召し上がっていたり、行事にも参加していただいていたが、まだ以前のようにできない。ご本人と家族の意向が違うときに職員として戸惑うこともある。面会室にはふるかわ新聞や活動時の写真を掲示してホームの様子が伝わるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、孫や兄弟などの面会もあり喜ぶ姿がみられた。モーニングや外食時に津島神社へ出かけたり、自宅の近くに道を通ったりする。廊下に津島市内の名所の写真を掲示し、写真を見てもらい永昔話を聞かせていただく。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	口論、トラブルなど申し送り時など、職員間で情報共有しトラブルなど回避できるように努めているが、うまくいかない事も多い。しかしトラブルのあった方同士が、その後廊下で談笑している場面なども見られる時もある。トラブルになる場面をつかむことが重要。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者にて支援している。長期に入院になった方なども管理者にて対応相談に乗っていることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の意向を聞いて実施するが、意向の出ない時もある。ご本人の行動を観察したり家族からの聞き取りで、意向にそえる様支援している。会話の中から聞き取れる様に、普段からよく話しかけるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートやアセスメントを読み込み把握している。ご家族にも面会時にお聞きし、自宅での過ごし方や好きな事、得意な事を把握するようにした。自宅での大切にしていたもの、写真なども持ってきていただく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、観察し把握するようにしている。入居間もないころは注意深く観察する。朝の挨拶の時に御本人の様子が分かることも多いので、欠かさないように努めた。表情や態度で今日の過ごし方の工夫できるよう気にかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者中心にアセスメントを行ない、カンファレンス(担当者会議)にてケアマネ、介護職員にて意見交換し、介護計画を作成している。ご本人、家族の意向は担当職員やケアマネ、管理者にて事前に確認するようにしているが、時には反映されていないこともある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事は介護記録に記入し、職員はそれぞれ記録を読むようになっているが、十分にない時もある。気になった情報は申し送りでも検討し、ケアの見直し、計画の修正に反映させている。実行したかの記録だけでなく、心情、言葉などそのまま記入し伝わるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほしいもの、衣類などご本人と一緒に買い物に出かけ、選んでいただく。コロナ禍でなかなか外食などしにくかったが、喫茶店の要望などから少しずつ実現を増やす事が出来た。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のなじみの場所など聞き取り、外出などで楽しめる様にしたい。 最近始めたモーニング外出は、通いやすいこともあり好評で可能な限り続けていきたい。今年度はボランティアへレクをお願いしている。近所の神社へお参りに出かけている。感染対策していただき美容院は継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様の病状や受診状況に合わせて支援している。協力委病院への受診がほとんどだが、入居前からのかかりつけを継続する方や、専門医への受診をつづけている方には看護師が付き添い、医師への相談や指示を直接確認できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の支援の中で気が付いたことは看護師(管理者)に伝え指示を受けながら対応している。報告にてその後すぐ受診に結びつくことも多い。早期の対応で、病状の安定している方が多く、看護師への日頃からの細かい報告や相談が利用者の健康を支えていると実感している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主に管理者が対応している。看護サマリーをFAXしたり、地域連携室との電話でのやり取りを行う。入院中の不安や疑問を家族から受ける事もある。出来るだけ早期回復早期退院できるよう状況共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明しているが、面会時や体調の変化時などに繰り返し説明している。出来る限り本人家族の意向に沿う形をとるが、医療処置など看護師一人体制では限界もあり、場面ごとに説明し選択して頂ける様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内で研修しているが、実際の場面に対応した事のない職員は不安が大きい。勉強会で事例検討でき、振り返りが出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム研修にて説明を受けているが、実際対応できるかどうか不安である。個々にも勉強することが必要である。火災については避難訓練と消火器の使い方など指導を受けた。災害時の備蓄などは勉強会も行い必要な支援と物など職員で意見交換行なった。年1回災害時の避難経路の確認をしている。今年度は今後行う予定。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ心掛けて対応している。トイレの入り口が空いていることがあり、管理者から全体への注意があった。自分がされて嫌なことはしないように心がけて、排泄の介助の時などは声の大きさや言葉かけに気を配った。第三者がみて不快に思う言動をしないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人が希望を伝えられるような声掛けを心掛けている。希望を伝えにくい方には、いくつか提案し選択できるようにするなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングや、昼食後の過ごし方などご本人の気持ちに合わせ自由に動いて頂いている。廊下のソファで昼寝する方やリビングのソファで過ごす方などさまざまである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、洗面の時に髭剃りやヘアスタイルを整えるなど必要なものを準備しておく。季節に合わせた服装の準備やトイレの後にさりげなく衣類を整える様にしている。また、なるべく人前では声を掛けず、離れたところで伝える様にしている。希望の方には毛染めもおこなっている。爪切りをふくめ足のケアも心掛けている。女性の方にマニキュアやバックをしたら喜んで頂けた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットのメニューは職員が持ち回りで作成、好みのものなど反映させることが出来る。行事や季節に合わせたメニューも取り入れている。準備や片付けは一緒に行なう様にしているがやりたくない人に無理強いはしない様にしている。好きなパンや好みの漬物など要望に応じて準備している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作るメニューの為マンネリ化している部分もある。栄養が偏らないように心がけている。日々摂取状況や呑み込みの様子など見て切り方やトロミなど配慮している。夜間帯も御茶が飲めるように配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアしている。必要な方には職員が磨きなおしたり、義歯の洗浄などケアしている。職員の意識の中にも口腔ケアは重要だとの意志が強い。嚥下体操も取り入れている。舌ブラシの使用。マウスウォッシュを毎回利用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い、個々の排泄パターンの把握に努め、必要な方はそれぞれ声掛けや、付き添いなど状態に応じて行っている。ウオッシュレットを使い清潔に心掛けている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に合わせて、水分量の記入も行って便秘解消の支援につなげている。また、ヨーグルト、果物食物繊維を取り入れている。運動をもっと取り入れなくてはいけないと感じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に対応したいが、拒否や行事で入浴できない時もあり、職員が決めてしまう場面もおおい。入浴を嫌がられた方が、入浴時に笑顔が見られ、お礼の言葉も聞かれると職員によるこびになっている。毎回お湯を交換し気持ちよく入って頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後などその方に応じて、居室で休んで頂いたりしている。昼寝で夜間不穏になってしまう方などは、時間を見て声を掛けている。日中の活動量が増え、夜間気持ちよく良眠出来るのではないかとも思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬や知らない薬の時は作用副作用を調べて確認している。カルテに薬剤情報が入っており確認している。内服のさいには、必ず名前日時の確認を読み上げ確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、編み物、書字など個々の趣味、得意な事を取り入れ、メニュー書きや日付替えなど役割を持っていただいている。洗濯物畳み、食器拭きや盛り付けをお願いすることもある。庭の畑の野菜などについて相談したり、調理について相談しアドバイスを頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニット全員でバスを見に出かける、喫茶店、神社に行く等外出を増やしている。ご本人が家に帰るからと外出希望される時は出来るだけ職員付き添って一緒に歩くようにしている。喫茶と後市内をドライブし、街並みを見ながら会話を広げ、笑顔やお気持ちを聴く事が出来支援に繋がられた。家族の協力で外出外泊できる方もいる。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	カバン、財布、現金を所持している方もいるがお金が無くなった、実際に小銭を落している方や、ポケットに入れたままになっている方もいる。状況についてはご家族にも説明している。もっている安心感もある為無理に取り上げることはせず対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で毎日ご家族と連絡を取っている方もいる。ケアプランでご家族に手紙を書いたり、レクで絵葉書をご家族に出すなど支援している。個別に贈り物が届いたときなどは、御礼の手紙が出せる様に職員が支援している。電話をかけたいと希望のある方に取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙、写真など廊下に掲示し、生活感や季節感を感じて頂ける様にしている。廊下にソファや、庭が見える様にいすを置いたり、リビングでもくつろげるようにしている。テレビの音量や、外からの光などは個々に感じ方が違うため、難しいこともある。個室に配置してあるセンサー音が気になる方もいて音量に配慮が必要。窓を開け換気。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファなどでは、一緒に座り仲良く談笑する場面も見られる。食事の席もなるべく気の合う方同士にしている。廊下にもいすやソファを置き、一人でも好きなようにゆったり過ごす空間を創っている。玄関外にベンチを置いたことにより、職員とゆっくり話が出来る、気分転換出来る場となった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出のもの、趣味のものなどお持ちいただき、家具の配置など危なくないように配慮している。定期的に布団を干すなど気持ちよく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りは必要だが、出来る限り自由に自立して過ごして頂ける様にしている。危ないと思うこともやめて頂くのではなく、置き方を変えるなど出来るだけ、出来る能力をつづけて頂ける方法を工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392700049		
法人名	医療法人三善会		
事業所名	医療法人三善会グループホームふるかわ 西ユニット		
所在地	愛知県津島市古川町2丁目55番地		
自己評価作成日	令和5年9月30日	評価結果市町村受理日	令和5年11月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;UjvovsvoCd=2392700049-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;UjvovsvoCd=2392700049-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室
所在地	愛知県新城市黒田字大岡132番地2
聞き取り調査日	令和5年10月25日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

敷地も広く平屋建て2ユニット。緑を多く取り入れ、各ユニットに中庭もある。スタッフと利用者として穏やかなゆったりとした空間を過ごせるホームである。各ユニット中庭があり、今年は利用者それぞれ夏野菜を育て収穫を楽しんだ。今年度は近くのモーニングに出かけるなどホームから、少しでも外に出かけることも目標に掲げている。

医療法人が母体であり、看護師を配置、利用者の健康管理と主治医との連携に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場合やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「明るく・笑い・楽しめる・心安らぐ家」やユニット目標がいつでも確認できるようになっている。理念を頭に置き、利用者様にも出来るだけ楽しんで頂ける様に業務にあたっている。利用者様が笑顔で、居心地のいい空間になるように支援したいと常に思っている。ユニットごとの目標を毎年決めている。キッチンに「スタッフ皆でレクリエーションにも力を入れてとりくむ」と目標が貼ってある		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけると、近隣の方や畑の方とあいさつをしたり、時には話しかけて下さる方もいる。最近(3ヶ月ほど)ボランティアの方の受け入れや、外出を再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍であったため、ほとんどできていない。事業所へ認知症の家族(入居ではない方)の方から相談があった時などは、対応の方法や気持ちを聴く、など管理者からお話することなどはある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催ではふるかわ新聞なども取り入れ、ホームでの活動が伝わるようにしている。各委員さんからは、FAXにて意見を貰えるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者からは連絡事項など、メールで送って頂く。質問などは担当者へ電話にて行う。明確に指導、助言を貰えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度より2ヶ月に1回の会議。ユニットドアの施錠についてやセルフチェックなど、常に身体拘束に繋がらないように研修会も実施している。身体拘束に当たる行為はないが、今後も拘束しなくてもよいケアを考えながら行っていく。ユニットドアは開錠しセンサーで気づき、外出希望の方は付き添えるように努力している。不穏が強くやむを得ずユニットドアを施錠する時もあるが、必要時以外はすぐに開錠するよう心がけている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者にて勉強会を実施。勉強会以外で職員から疑問質問を受ける事もある。ホームで虐待行為はないが、第三者から見て疑われる行為はしないことが大切。言葉遣いやケアで疑問をもつ場面を見かけたら、その場で声を掛けるか管理者へ相談する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は、後見人制度や自立支援事業の利用者はいないが、過去に何度か制度への結びつけの支援を行った機会がある。職員に制度について具体的に学ぶ機会はもうけなかった。職員や家族から相談や質問があった時には、管理者より制度や他の方法など含めて説		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に管理者より説明し、契約している。入居後は、面会時などに不安や疑問を確認し、説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニット目標が、利用者様のやりたい事の実現であり、ご本人の意見・要望を取り入れる様に実践している。ご家族が面会時は、声を掛け日常の様子を伝え、質問には答える様心がけている。または管理者より説明してもらい、様子に変化があった時は管理者より電話にて説明し、家族の意向を確認している。職員間で共有できるよう、解決できるよう申し送り、検討もしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度、意見や提案を行い、会議でも今後行うと良い事など提案できる機会を持ってもらっている。管理者はすぐに対応が必要な事は、すぐ対処してくれる。職員同士でも、申し送りの場で意見交換、対策が出来る。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則は、すぐに閲覧できるようファイルしてある。変更時は事務所に掲示し周知している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍にて外部研修の機会は減った。(避けた)法人研修または、ホーム内で、研修の機会を多くした。もち回りの研修で、職員自ら勉強する機会があり、自分の考えと他者の意見も取り入れ、多方面からケアのあり方の向上に努める事が出来ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、交流する機会はほとんどない。取り組みとしても行っていない。同一法人のグループホームとのみ、情報交換や問い合わせなど出来ている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人にとって(理念の通り)居心地の良いホームになる様心がけて接している。入居時のフェイスシート、アセスメントシートを確認して対応に心掛けている。入居直後は特に注意し、ご本人が困らない様に話をする機会を多く持ちながらのケアに努めている。ホームに早くなじめるようにケアしている。話の内容を、他の職員にも申し送り、情報共有に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心で対応しているが、職員も要望など聞き対応している。電話や面会時に家族から質問があった場合わかる範囲で説明し対応している。管理者に報告し、不足部分是对応してもらっている。面会時に「いつも〇〇して手伝ってもらっています」と様子を伝えたり、感謝の言葉を伝える様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居見学、聞き取り、本人の行動を見守りながら、その時の状況に合わせて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常、意識しながらケアに努めているが、職員主導の場面も見られる。年上の方であり、尊敬と感謝を忘れずに対応しようと心掛けてきた。利用者様の表情や様子を細かく観察し変化をキャッチし、支援するように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	感染対策をしたうえで面会して頂いている。コロナ禍であり、面会制限の時期もあったが、居間はキーパーソンだけでなく、他の家族(孫や遠方の兄弟など)様々な人とも面会で交流して頂ける様になっている。コロナ前は居室やリビングでお茶やお菓子を共に召し上がっていたり、行事にも参加していたが、まだ以前のようにできない。ご本人と家族の意向が違ふときに職員として戸惑うこともある。面会室にはふるかわ新聞や活動時の写真を掲示してホームの様子が伝わるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、孫や兄弟などの面会もあり喜ぶ姿がみられた。モーニングや外食時に津島神社へ出かけたり、自宅の近くに道を通ったりする。また、お墓参りや(自宅である)お寺へ月に1回は行く様に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	口論、トラブルなど申し送り時など、職員間で情報共有しトラブルなど回避できるように努めているが、うまくいかない事も多い。しかしトラブルのあった方同士が、その後廊下で談笑している場面なども見られる時もある。トラブルになる場面をつかむことが重要。普段は皆で同じテーブルで歌を歌う場面が見られている。スタッフが声を掛けほかの方も誘い、歌えない方も孤立しない様配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者にて支援している。長期に入院になった方なども管理者にて対応相談に乗っていることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人の意向を聞いて実施するが、意向の出ない時もある。ご本人の行動を観察したり家族からの聞き取りで、意向にそえる様支援している。会話の中から聞き取れる様に、普段からよく話しかけるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシートやアセスメントを読み込み把握している。ご家族にも面会時にお聞きし、自宅での過ごし方や好きな事、得意な事を把握するようにした。自宅での大切にしていたもの、写真なども持ってきていただく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、観察し把握するようにしている。入居間もないころは注意深く観察する。朝の挨拶の時に御本人の様子が分かることも多いので、欠かさないように努めた。表情や態度で今日の過ごし方の工夫できるよう気にかけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者中心にアセスメントを行ない、カンファレンス(担当者会議)にてケアマネ、介護職員にて意見交換し、介護計画を作成している。ご本人、家族の意向は担当職員やケアマネ、管理者にて事前に確認するようにしているが、時には反映されていないこともある。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事は介護記録に記入し、職員はそれぞれ記録を読むようになっているが、十分にない時もある。気になった情報は申し送りでも検討し、ケアの見直し、計画の修正に反映させている。実行したかの記録だけでなく、心情、言葉などそのまま記入し伝わるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ほしいもの、衣類などご本人と一緒に買い物に出かけ、選んでいただく。コロナ禍でなかなか外食などしにくかったが、喫茶店の要望などから少しずつ実現を増やす事が出来た。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前のなじみの場所など聞き取り、外出などで楽しめる様にしたい。 最近始めたモーニング外出は、通いやすいこともあり好評で可能な限り続けていきたい。今年度はボランティアのk谷もレクをお願いしている。近所の神社へお参りに出かけている。感染対策していた美容院は継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様の病状や受診状況に合わせて支援している。協力委病院への受診がほとんどだが、入居前からのかかりつけを継続する方や、専門医への受診をつづけている方には看護師が付き添い、医師への相談や指示を直接確認できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の支援の中で気が付いたことは看護師(管理者)に伝え指示を受けながら対応している。報国にてその後すぐ受診に結びつくことも多い。早期の対応で、病状の安定している方が多く、看護師への日頃からの細かい報告や相談が利用者の健康を支えていると実感している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主に管理者が対応している。看護サマリーをFAXしたり、地域連携室との電話でのやり取りを行う。入院中の不安や疑問を家族から受ける事もある。出来るだけ早期回復早期退院できるよう状況共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明しているが、面会時や体調の変化時などに繰り返し説明している。出来る限り本人家族の意向に沿う形をとるが、医療処置など看護師一人体制では限界もあり、場面ごとに説明し選択して頂ける様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム内で研修しているが、実際の場面に対応した事のない職員は不安が大きい。勉強会で事例検討でき、振り返りが出来た。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホーム研修にて説明を受けているが、実際対応できるかどうか不安である。個々にも勉強することが必要である。火災については避難訓練と消火器の使い方など指導を受けた。災害時の備蓄などは勉強会も行い必要な支援と物など職員で意見交換を行った。年1回災害時の避難経路の確認をしている。今年度は今後行う予定。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来るだけ心掛けて対応している。トイレの入り口が空いていることがあり、管理者から全体への注意があった。自分がされて嫌なことはしないように心がけて、排泄の介助の時などは声の大きさや言葉かけに気を配った。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ本人が希望を伝えられるような声掛けを心掛けている。希望を伝えるには、いくつか提案し選択できるようにするなど工夫している。散歩に行きたいと希望を伝えてくださったと気に、一緒に出かけ散歩コースも教えていただいた。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴のタイミングや、昼食後の過ごし方などご本人の気持ちに合わせて自由に動いて頂いている。廊下のソファで昼寝する方やリビングのソファで過ごす方などさまざまである。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、洗面の時に髭剃りやヘアスタイルを整えるなど必要なものを準備しておく。季節に合わせた服装の準備やトイレの後にさりげなく衣類を整える様にしている。また、なるべく人前では声を掛けず、離れたところで伝える様にしている。希望の方には毛染めもおこなっている。爪切りをふくめ足のケアも心掛けている。女性の方にマニキュアやバックをしたら喜んで頂けた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットのメニューは職員が持ち回りで作成、好みのものなど反映させることが出来る。行事や季節に合わせたメニューも取り入れている。準備や片付けは一緒に行なう様にしているがやりたくない人に無理強いはいしない様にしている。好きなパンや好みの漬物など要望があり購入している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が作るメニューの為マンネリ化している部分もある。栄養が偏らないように心がけている。日々摂取状況や呑み込みの様子など見て切り方やトロミなど配慮している。夜間帯も御茶が飲めるように配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアしている。必要な方には職員が磨きなおしたり、義歯の洗浄などケアしている。職員の意識の中にも口腔ケアは重要だとの意志が強い。嚥下体操も取り入れている。舌ブラシの使用。マウスウォッシュを毎回利用している。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を使い、個々の排泄パターンの把握に努め、必要な方はそれぞれ声掛けや、付き添いなど状態に応じて行っている。尿意便意がなくなって歩行が困難な方も、職員2名体制で歩いて頂きトイレに座って頂くようにしている。ウォシュレットを使い清潔に心掛けてい		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に合わせて、水分量の記入も行って便秘解消の支援につなげている。また、ヨーグルト、果物食物繊維を取り入れている。運動をもっと取り入れなくてはいけないと感じている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り希望に対応したいが、拒否や行事で入浴できない時もあり、職員が決めてしまう場面もおおい。入浴を嫌がられた方が、入浴時に笑顔が見られ、お礼の言葉も聞かれると職員によるこびになっている。毎回お湯を交換し気持ちよく入って頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後などその方に応じて、居室で休んで頂いたりしている。昼寝で夜間不穏になってしまう方などは、時間を見て声を掛けている。日中の活動量が増えたと、夜間気持ちよく良眠出来るのではないかとも思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しく処方された薬や知らない薬の時は作用副作用を調べて確認している。カルテに薬剤情報が入っており確認している。内服のさいには、必ず名前日時の確認を読み上げ確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌、編み物、書字など個々の趣味、得意な事を取り入れ、メニュー書きや日付替えなど役割を持っていただいている。洗濯物畳み、食器拭きや盛り付けをお願いすることもある。庭の畑の野菜などについて相談したり、調理について相談しアドバイスを頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ユニット全員でバスを見に出かける、喫茶店、神社に行く等外出を増やしている。ご本人が家に帰るからと外出希望される時は出来るだけ職員付き添って一緒に歩くようにしている。喫茶と後市内をドライブし、街並みを見ながら会話を広げ、笑顔やお気持ちを聴く事が出来支援につなげられた。家族の協力で外出外泊できる方もいる。近くの犬にワンチールをあげたい方がいて、相談し飼い主の許可を得て犬にあげに行く、散歩に出かける良いきっかけになっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布や金銭を持っている方はいない。希望の品物を一緒に買いに出かけ、選んでいただき、支払いは預り金から支払い職員が支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に手紙を書いたり、レクで絵葉書を出すなど支援している。個別に贈り物が届いたときなどは、御礼の手紙が出せる様に職員が支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙、写真など廊下に掲示し、生活感や季節感を感じて頂ける様にしている。廊下にソファや、庭が見える様にいすを置いたり、リビングでもくつろげるようにしている。テレビの音量や、外からの光などは個々に感じ方が違うため、難しいこともある。個室に配置してるセンサー音が気になる方もいて音量に配慮が必要。窓を開け換気。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファなどでは、一緒に座り仲良く談笑する場面も見られる。食事の席もなるべく気の合う方向士にしている。廊下にもいすやソファを置き、一人でも好きなようにゆったり過ごす空間を創っている。玄関外にベンチを置いたことにより、職員とゆっくり話が出来、気分転換出来る場となった。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や思い出のもの、趣味のものなどお持ちいただき、家具の配置など危なくないように配慮している。定期的に布団を干すなど気持ちよく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	見守りは必要だが、出来る限り自由に自立して過ごして頂ける様にしている。危ないと思うこともやめて頂くのではなく、置き方を変えるなど出来るだけ、出来る能力をつづけて頂ける方法を工夫している。		